

1. 調査の目的

- 入院医療がDPCにより包括評価されたことにより、検査、画像診断の実施の効率化が進んでいる。
- また、従来入院医療で実施されていた検査、画像診断のうち、外来で実施可能なものについては、外来で実施する傾向が強まってきている。
- そこで、DPC導入により、入院医療における検査、画像診断の外来へのシフトがどの程度起こったのか、またそれが適切なものであったかを検証する。

2. 班構成

- ◎ 斉藤 寿一 社会保険中央総合病院長
原 正道 横浜市立大学医学部教授
渡辺 晴明 慶応大学医学部教授

3. 具体的内容

(1) 医療機関別集計

- 包括されている検査等の入院外来実施比率
 - ・ 包括されている検査等について入院で実施された件数と入院外で実施された件数の比率がDPC導入前と導入後で変化していないかを検討する。また、DPC試行的適用対象外病院において、どのような状況であるか（DPC試行的適用対象病院の導入前、導入後のどちらの状況と類似しているか）、どのような変化がおこっているかについて検討する。これらの変化が在院日数、転帰、患者満足度とどう関連しているかを検討する。（そのために、患者満足度に係る特別調査との連携を図る。）
- 包括されている検査等、包括評価されていない高額な処置等の実施状況
 - ・ 包括されている検査等、包括評価されていない高額な処置等の実施状況について、DPC導入前と導入後で変化していないかを検討する。また、DPC試行的適用対象外病院において、どのような状況であるか（DPC試行的適用対象病院の導入前、導入後のどちらの状況と類似しているか）、どのような変化がおこっているかについて検討する。これらの変化が在院日数、転帰、患者満足度とどう関連しているかを検討する。（そのために、患者満足度に係る特別調査との連携を図る。）

(2) 患者別集計

- 診断群分類別検査・画像診断の実施状況
 - ・ 入院患者について、診断群分類別に検査・画像点数を集計しDPC導入前導入後でどのような変化があったかを検証する。
 - ・ 差の大きかった診断群分類に該当している患者について、外来診療における検査の実施状況について、どのような検査が外来にシフトしたのか、(もし外来にシフトしたとすれば、それがどの妥当なものだったのか)あるいは効率化が進んだのかについて検討する。
- 入院患者の入院前外来診察の状況
 - ・ 入院患者について、入院日前一定期間（たとえば1月）の外来診察の状況を把握する。（外来診察日数、診療の内容等）

4. 今後の進め方

- 8月中 上記調査を実施可能な施設の把握
- 8月～ 調査の実施
- 10月 中間報告
- 3月 最終報告